令和6年度 第3回運営協議会議事録

開催日：令和7年2月3日(月) 14:00～15:20
於：アクティブラーニングルーム
出席者：【委員(50 音順、敬称略)】
岡崎 裕、黒田 浩継、新納 孝啓、玉橋 唱平
【事務局員】
校長 長岡 一久、教頭 田中 次郎、首席 宮武 修平、、首席 井戸本 剛志
【学校関係者】
各分掌長、学年主任、初任者

1 連絡及び報告事項
(1)授業アンケートおよび、学校教育自己診断の結果について(質疑応答は協議の中で実施)
授業アンケートの平均値は、昨年度と同等。若干の下降があったが、主たる要因は「学習に臨む態度」にかかる事項であった。但し、12 月末に実施した学校教育自己診断のアンケートで同様の設問に対しては肯定的な回答が増えていることから課題とは捉えていない。
学校教育自己診断のアンケートについては、肯定的な回答の総合的な平均値は昨年度と同等。生徒回答で肯定的な評価が低いのは「生徒会活動は活発である」「クラブ活動は活発である」「授業や部活動で地域の人とかかわる機会がある」で、いずれも近年は低い数値で推移している。特にクラブ活動については、学校設置時より加入率が低い値であったが近年増々低下している。一方、年度途中で近々の 5 年間で部員がいなかった男子バレー部が活動を再開している。
生徒会活動について、実際は一生懸命活動してくれているが、外部での活動や、土曜日のオープンスクールなど、在校生に見えない活動が多いためこのような評価にはなっている。
近隣の方との交流について、近隣の清掃活動にとどまっている。
地域連携としては、泉南市役所とのスポーツ交流や泉南イオンで本校の生徒が考案したメニューがレストランやフードコートで提供されるなどしている。
生徒からの肯定的な回答の値が高い項目は「校則やマナーを守っている」が 94.3％と極めて高い数字になっている。同じ設問で保護者の回答でも 89％となっている一方、教員からの回答は 22.2％になっており、隔たりが大きいことが本校の課題である。
また、保護者からは記述式で「どうすれば本校が魅力ある学校になるか」と問うている。「校則が厳しすぎる」「校則が古い」といった生徒指導にかかる意見が多くあった。但し、先週だけで喫煙、バイク通学や授業妨害などで複数の問題事象が発生しており、不適切な行動の件数は昨年度から急激に増加している現状がある。
(2)令和6年度の進路決定状況について
4年制大学・短大進学者が約 15％、 専門学校が約半分の 48％、就職が 27％。
3 年前までは大学・短大の進学者はおよそ 25％で推移していたが、昨年は 18％、今年度は 15％と下降を続けている。進学生徒の半数近くが専門学校に進学。
また、進路未決定者は、学校経営計画の目標値 3％未満に対して 7％でとなる見込み。
本校の大学、短大合格者は指定校推薦が最も多く、次いで面接のみの総合型選抜での受験。専門学校においても、総合型での受験が圧倒的に多い。
看護コースでは、実際に看護系の進路をめざす生徒は、10 人以下。その生徒には学習指導と 4 月当初に外部講師を招き面接の指導に注力している。
就職は、年々求人数は増加。近隣の高校の就職希望者が減っていることも要因の一つ。
1 次内定率は 46 社中 39 社で 84.5％で、男子の一次内定率は 100％。どこ高校でも女子は事務職やアパレル関係に集中しており倍率が高い。10 月以降の決定者は約 10 名。
公務員希望は 5 名で、行政職1人、自衛隊 2 名の計 3 名が合格。
【ご提言・質疑応答】
●岡崎委員
看護コース、保育コースは「コース」として機能し、進路に結び付いているか。

（進路部長）
半数以上が、そのコースに応じた進路につなげており、コースとしての役割は果たせている。
●玉橋委員
進路路選択の時期について教えてほしい。
（進路部長）
進学に関しては２学年のうち、或いは３学年のはじめの方にはある程度決めておくように指導。専門学校は総合型選抜のエントリーが６月。大学等もやはり指定校推薦を利用する生徒が多いため、７月に一覧を提示し、９月初旬に申し込みを受け付けている。
就職に関しては、多くの事業所が９月の中頃に選考するため、８月の盆明けに受験事業所を校内選考で決定している。
●黒田委員
進学で短大希望者が減って専門学校志望者が増加している要因はどこにあるのか。
（教頭）
明確な回答はできないが、専門学校でも担任制を導入して、個々の生徒を丁寧にフォローする体制が整ってきたことや、かつては専門学校で取得できなかった資格が専門学校でも取得できるようになっていることが原因として考えられる。また、規模も小さいため立地的に通学しやすい場所にあることも挙げられる。

２ 協議事項
令和6年度学校経営計画の評価および令和7年度学校経営計画案については、委員のみなさまにご承認いただけたが、下記のご提言を頂いた。
（1）令和6年度学校経営計画・令和7年度学校経営計画案の評価にかかる説明
令和6年度より、泉南地域の中核的公立高校をめざしており、令和7年度は一層「泉南地域」を強く出していきたいと考えている。
生徒の「確かな学力」「自己実現」「自律心」「人間性」、および学校組織の「同僚性」の柱は継続。
令和6年度の新しい取り組みの一例は国際理解教育を国際交流センターにおいて交流の機会を設けた。府の方針で今後１校、1 姉妹校提携を進める予定となるため今後変更がある。
【ご提言・質疑応答】
●岡崎委員
令和 6 年度の実施評価の「探究」について、主たる場である総合的な探究の時間がどのように実施されたのか。また、国際交流で海外校との交流が難しかったということについて、関西国際空港の運営会社、航空会社との連携の可能性についてどう考えているか。
（校長）
学校経営計画の中で、具体的に記載していないので口頭で説明すると、「探究」は例えば 自分の将来就きたい仕事を調べる中で、メソッドの活用を学ばせたり、修学旅行や人権学習に絡めてメソッドを実行する形にしている。学習発表会を成果発表の場としている。
国際交流については、これまでも関西国空港関連の企業との交流も検討しましたが、高校生と交流をするにはハードルが高く断念しました。ただし、地域の中で本校が存在感を出すためにも必要なことと思う。
（岡崎委員）
企業は地域貢献を行うことが求められている立場であり、かつ日常的に国際的な活動した人材が豊富にいる。交流は企業にとってもメリットがある。また、総合的な探求については、どうしても保育や看護といった専門的なニュアンスがあり、専門家でないと教示できないみたいな雰囲気があるが、文科省の意図は、ひとり一人のごく普通の高校生が地域や社会にてコミットする体験をさせるということが本来の趣旨なので、うまく構造化して実行する必要がある。
●玉橋委員
大学入試では総合的な探究の成果を持って、必要最低限の学力で公立大学進学を実現する戦略を立てている高校もある。りんくう翔南高校の公立大学進学にかかる戦略を伺いたい。
（校長）
国公立大学の合格については先生方、生徒への期待も含めて記載している。今のところ具体的な戦略は

ないが、泉南高校時代に進学実績がある和歌山大学に 1 名行かせたいと考えている。本校のカリキュラムに合う方策があればご教示いただきたい。

●黒田委員

進学では、総合型選抜での合格が圧倒的に多い。総合型選抜は、ポテンシャルをアピールして合格を勝ち取ると思うので、生徒がコンテンツをどれだけ持っているかの勝負だと思う。進路を意識するのであれば、方向性として、総合的な探究の時間ことを、より攻めに回ったアプローチをするのが好ましいのではないかと思う。

アンケートの分析に基づいて、次年度の計画に反映させる点として、「ルールを守っている」という認識で、生徒と先生方の認識と違うことについて、ルールは何のために守らなければいけないのかが生徒に理解させ、社会に出てからしんどい思いをしないためであることを伝えることと、評価に反映させられやすいものとして、自然災害時の対応に向けて取り組むことをあげる。

（校長）

総合的な探究の取り組みは、確かな学力の育成と授業改善に反映されるものである考えている。さらに、進路選択に繋がれば、学校評価の改善に繋がると考える。また、学校教育自己診断の結果とリンクするものとも捉えている。